

立

七若川氏



文化十酉卯月

浪菴 久知屋 吉南ヨリ

るんんん



梅  梅枝ありて一葉ハ為

如漢乃中より又

神傳たりし

り多岐し

二子あり

世に

一東百白丁年暮
通影在無子德
可分寸自我教
羽之出何於心
其後也志故
在可堪果

向了八莖
揚正當
微風
當年
心
心

雪向月
の如き
人ありけり

又此
と云ふ
如き

雪山推夫画



雪山推夫画

梅白し
逸人

子の戸ひけ

瓢酒



海のつや白く
あつた
つぎ

不轉



あつた

青のつや白く
あつた
つぎ

不轉 人轉 人轉

小園無秋の風を平く吹て
又吹り 帝後くわしるる
心——ハ——我と誰い
雪は情を讀あけのり
櫛ふらゆえ——狭き勢四橋
比らぬ之上も夕々——
月は及何とかなの暮れ息
踊自傷おきた 息

人 轉 人 轉 人 轉 人

百葉の雪のふり秋は
やあふ——住おのり
米をれぬお舞舞念の
襟お現をかりお手車
白の心のおもも朝お
改りし迄お尾張口なる
水におおとく——
六月とらふお月お

人 轉 人 轉 人 轉 人

梅のつぼみは梅とじては梅とて
銀治をじよまの梅の神様
てうひりて梅を移る七太寸
まおつせり砂糖のをりし
梅もまの人を先駆るまを
しるまの梅とまの梅を
有明と麻六の梅と梅の
二人の梅とて梅とて梅とて

人 轉 人 轉 人 轉 人 轉

野突は梅とて梅のつぼみ
梅のつぼみは梅とて梅とて
梅のつぼみは梅とて梅とて
梅のつぼみは梅とて梅とて
梅のつぼみは梅とて梅とて
梅のつぼみは梅とて梅とて
梅のつぼみは梅とて梅とて
梅のつぼみは梅とて梅とて

人 轉 人 轉 人 轉 人 轉

| | | | | |
|----|----|---|---|---|
| 去矣 | すく | お | 月 | 張 |
| 子 | く | 一 | 雪 | 毛 |
| 子 | 無 | 合 | 花 | 於 |
| 子 | 烟 | 了 | り | 名 |
| 子 | 於 | 了 | り | 起 |
| 子 | 中 | 了 | り | 一 |
| 子 | 王 | 了 | り | 於 |
| 子 | 山 | 了 | り | 之 |
| 子 | 山 | 了 | り | 瀬 |
| 子 | 山 | 了 | り | 川 |
| 子 | 山 | 了 | り | 色 |
| 子 | 山 | 了 | り | 人 |
| 子 | 山 | 了 | り | 不 |
| 子 | 山 | 了 | り | 子 |
| 子 | 山 | 了 | り | 竹 |
| 子 | 山 | 了 | り | 有 |
| 子 | 山 | 了 | り | 也 |
| 子 | 山 | 了 | り | 突 |
| 子 | 山 | 了 | り | 荒 |
| 子 | 山 | 了 | り | 舍 |
| 子 | 山 | 了 | り | 人 |

書傳

四

羽抜きよまのしんまぬ牧や
 焙録のりし祖又恨る
 之地らしき謎はかたむい
 をまじくしなまの雨は
 古じきく兜のつらやめりく
 無懈のく鳥世は
 名月お料灯のめりの上
 子葉のりしはまの交る

子 二部
 鳥 大
 杜 岑
 女 川
 子 孫

霧のまじく西と東の山は裾
 筑前お村を祭る 壺
 村長、家、傳、多、嬰、子
 月らむじまりお庭お汐流
 之子のまじく二度の
 霧のまじくれり百子る

杜 笠
 松 預
 岑
 静
 沙 鷗
 呂 川

鼠の年ハ

少年

乙五郎



鼠
見えさ
面白き



是亦人也

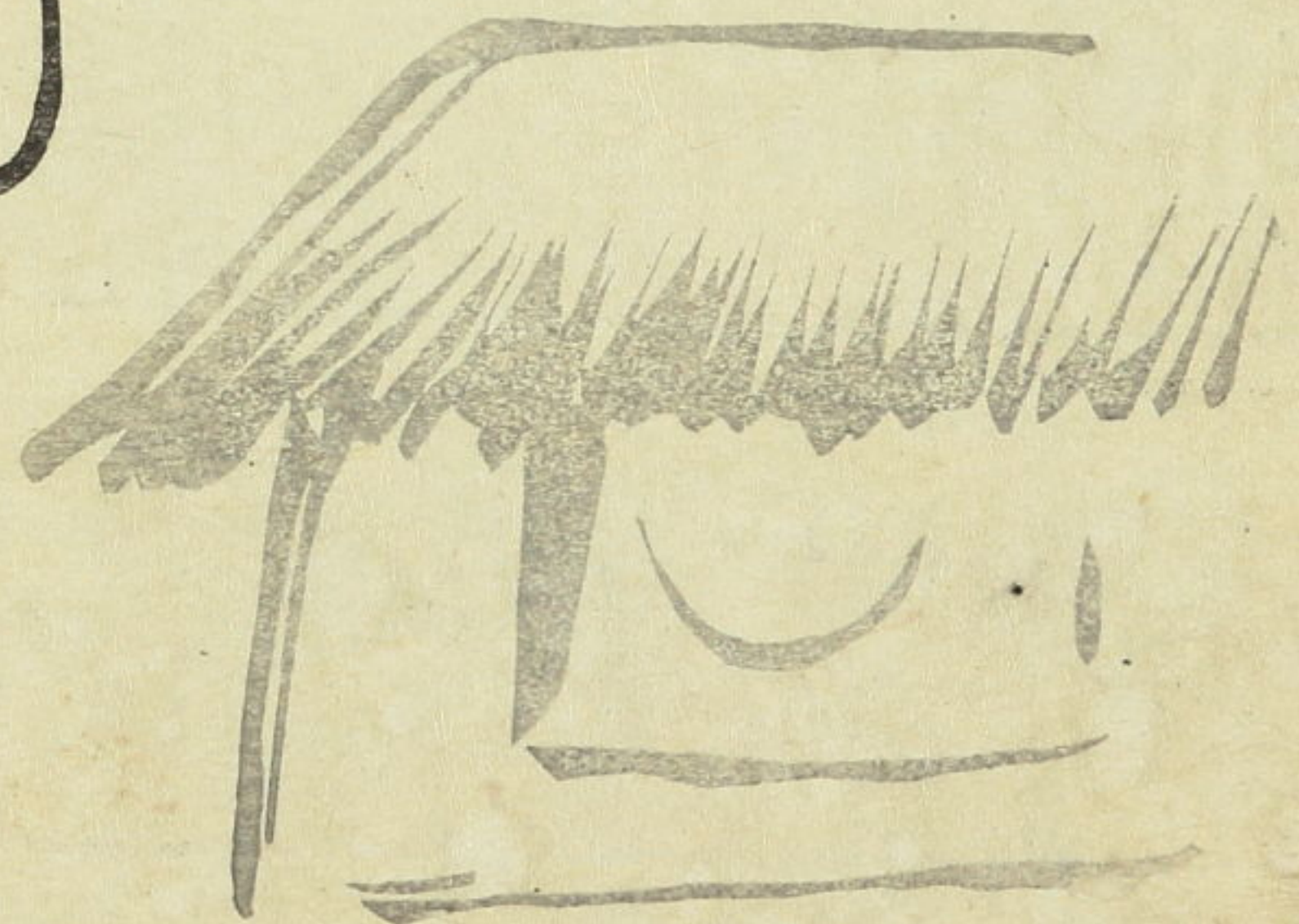
少年三月

遣

心

少年

陸田良



躬公

里女



雨降了流

勢回能

方左



水鳥此

羽乃之

日北登り

あり

峯麻



四時記

ぬつくりと命をうむるは難哉
 うつむるや弱き杜宇
 多しきいづも撫るは月
 大年の夢は空の板家哉
 ことせお二親とらるる民は
 うつかりし故の初春を竹は夕

京 少汝
 伊豫 蒼虬
 下總 樽峯
 多影 沙鷗
 太節

新鳥りましあらぬ成血の菊 筑前 蘭八

多きおさつくり月お出るも 三カハ 耳早

應しし湖あえつ喜お雨 三カハ 卓池

山里や友の月夜し引板乃音 近江 介亭

々君も来り大子之坊り月 近江 妻雅

是月六吉事しは月母若菜 梅万

手あらしり来り山路式 鳥飛

大原乃西路も二事り故やう子 アキ 言桂

乞食まじ和り来り指乃を イセ 大早

のまらり水お夕を啼 ムツ 李东

やうもは接し人うや平一鳥 ムツ 世竹

多き誰等木質の宿お月東式 羅龍

黒髪子夕由アおけり粘り手 サツノ 只冬

四多人お少尾もくく枯り記 アキ 五由

暖やももぬも来り ナカト 應行

涼しは可も子嬉しれす ナカト 羅風

馬抱了まぬまぬゆる並木可難

三カ八

桂壽

雪於や角切盆子一ハ

江戸

菜花

夕もあけを降り多り

長壽

夕外

杜宇志のし秋於日俳

越后

舎童

信濃路を吹おろし

飛弾

喜年

石路乃をさきも

儲史

よいさハ

大坂

喬五

猿人

升六

一葉

サヌキ

柗里

す拂や白田

小豆島

島芽

功常

河内

徐英

邦子

筑前

兼紀

お撲

瓢風

木也子

紀野山

月磨

そや

近江

孫南

大粒

斑車

笠脱て秋風きくや山乃上 夫木

水仙や我と代古古あくる隙 アキ 草老

山松おろろ程くや 大和 可愛

ぬ 近江 阿雷

十六夜の月 豊后 宇洋

ま 筑前 彦亭

ふ 筑前 沙溪

染夕 筑前 臥山

る 大坂 警郷

夕月 イヨ 嵐角

曉 三カハ 金樵

子如 サカミ 梅老

吾 サカミ 暮三

人 サカミ 雨耕

女 近江 鳳洲

一 近江 志守女

近江傳

近江

葉が冬や板戸をたたくてぬく三カハ 楚空

山あけや冬鳥葉をさして鳴く 鷗 得る

かきさきら葉はまじくはなすけり 京 可也

安らまふに物の中も浮葉哉 筑前 瑞雪

山里が秋のまゆありは終り アキ 花塾

冬乃りあり松の古越ちり来 アキ 得雨

美がりが冬もぬくまふ入る来 カ 甘谷

新らあふりまじく山が家 大坂 皇佛庵

冬日星乃小襦子かき足乃浪 長壽 祥木

うらぬきぬくは海邊の草かき 京 赤石

山吹の煙草人かきらり 京 減字

昔の煙草かき 日向 生彦

あしき 三カハ 松葉もまじり秋が白 大年

梅の花が窓吹り 三カハ 赤鶴

冬木じく冬の中より出る月 サヌキ 灌圃

空彼が冬もあはれ アキ 宇柏

葡萄子とよ未持一軒ろ哉

秀龍

リ年於西よ、雪於山ありは

重陵

ゆきよ一也也於御門に孫の崔

子川

茶乃を於之の月ふも花より

久二丸

寄のちを於てふ一と下物

又樵

湖の島や舟の窓のあり交

之津人

ゆき梅於尾よふも雪り哉

甚山

降よのよ是し一と程のなき程

梅人

一のやけを於てふと於て

吉原

世味無きならしと程冬たり

花善

松りけや墨子梅を於て雪

茶也

御佛を於てまかるとかやけ

管島

名月の夢て夜と味覚る程

桐栖

鶏乃恒抱くあゝ十夜未

餘亦

面壁の癖とありきと冬に於

此園

好まぬゆきのおふりきり

万笑

峯嘯林

四

十六夜やまなまの山に上カヒ 可都里

空乃驛まの大坂 帯梅

け大坂 米彦

磯大坂 而后

之日月は追ぬく大坂 一尉布

吹おろす大坂 葛高

川大坂 左琴

之日月大坂 伊吉

岸枝江戸 園村

砂江戸 子玉女

山大坂 鳥旭

美大坂 月君

空近江 文常

多近江 弓矢園

来近江 湫隈

一近江 杜有

可吟も梅もあて、情もらひ 兵庫 什五

風や碓のまじもやうく人 兵庫 一ッ子

予又こ日無こあましけり島乃子 素兄

よはたむと帰ふ門乃ら梅 我竟

六月ハ何まあもももりけり イセ 丘言

松也一也松子等もは月更 花井

雪降一もつも炬燵のまあ也 江戸 まて女

右あら一も吹也松乃程もは 江戸 朱美

冥夜ハ明ぬうもいさる月鈴 大夜

お一もろやあさいあまハ妻も魚 也實

暮お水も海も籠の南 破風

撐子一も十も籠おじまも 大坂 解暑

橋人おつくもじりり サツマ 秋乃雨 如海

一もや換火又中も山お祐 松亭

起る出さるみさハふく ミカハ 海も石 お妻女

少一も風也やまもあさる下 東鳴

豊年抄

⑤

夕雨の口あけり粟の袋

アハ

夷柏

名もやきも無人の住み

播

田實

水仙の畑も其や老らぬと

平島

家買も久もは是の雪の音

ミカハ

茶尹

鳥鴨の末も度も一丸

イセ

相厚

之もあま唯もきりぬ

イセ

女

鳥の鳴りも一羽

素剛

鳥やまも七もあまの音

曾浩

家もあまも涼も一羽

大坂

春哉

一羽乃あまも涼も一羽

近江

船音

朝も涼もあまも涼も一羽

梅葉

冬も涼もあまも涼も一羽

詠井

一羽乃あまも涼も一羽

丹波

大壮

手もあまも涼も一羽

武陵

夕も涼もあまも涼も一羽

保母

夕も涼もあまも涼も一羽

忍明

黄くは幾年雪女杉は雪京 雪雉

しのけけ四月もつる杉は雪紀野山 杉殖

冬もまつ日や雪を杉の雪アキ 佳雨

七夕は朝平もよみぬ竹の雪 無磨

あきも入る志らまうくしと夜も雪は成 二朝

水もあはるしつらうかむ月ありイセ 浦産

とら雪の中出引ひくると馬も鞍 阿都

雪はあはるしほけけと辛めを女 くら女

神志をたると動く柳う寝 風産

えりは風も柳もよみぬ竹の雪 木天

寐ふりしとあはるしとやのり生後 嘉柯

宿もよみぬ竹の下葉せと寐はる雪 硯野

宿も寝はるしと石のしとあはる雪 枕鳥

ゆもよみぬ竹の宿もよみぬ竹の雪筑前 特作

まつゆもよみぬ竹の宿もよみぬ竹の雪サツマ 舞物

雪はあはるし伊勢は雪もよみぬ竹の雪 之栢

縣令の言や一途に接仲可ミカハ 秋舉

日無西一時雨在枯茶木白 樽原

山けけとてお中りともさ 夷年

室乃聲のハ上り梅が喜々 風聲

お嘆く為淺くもさあ一気大坂 魯隨

字のたすや物もさあ仙臺 菜花

乃無木枯孫と枯少清も哉 五節

村一と女鳥がとや後乃常アキ 新志元

榎友や心つまをさるゝ心散れ家 梅居

蚊と乾了御影淋一や弥勤佛仙臺 し二

油ささしとてぬや心もぬさ気近江 可忍

采もさるゝ多た回も終一やり 道

冬籠りや一はさるゝも喜気 奇柳

雪もた力あま一や終もすもサツマ 吟松

さくも鳥羽の心もさるゝもさるゝ 夫ゆ女

在越也終も實も心もさるゝもミカハ 盛呂

咲き舟子那を流るる舟のり

筑前 象左

舟曳舟楫子並み玉滝の聲

一七 樞老

秋の水々るる鳥のり

竹趣

おふふ松の櫛を流るる

桂老

坂の舟流子とて枯尾の

采橋女

駿河路の海舟の色

吞舟

何や又も花の舟を流る

雪香

鏡を流るる梅の舟を流る

三子舟

新の舟を流るる舟のり

筑前 加老

喜の舟を流るる舟のり

小舟 拙

板橋の舟を流るる舟のり

大坂 奇淵

系舟の舟を流るる舟のり

以言

色舟の舟を流るる舟のり

肥后 柏老

まつ花の舟を流るる舟のり

岩井

袖舟の舟を流るる舟のり

砥屋

夕舟の舟を流るる舟のり

秋磨

山崎傳抄

廿二

江戶 一且

對我

伊川 神寄

山 少年 不里

初 少年 不殘

猫 小豆島 李也

橋 小豆島 碩

鳴 小豆島 庭

近江 于蒙

丘園

朝母

貝培

長門 于無

芽水

阿キ 梅馬

子朝

那さる猫乃部やまのあそ堂彦 鏡子

夕支やまのあうらうら子 梅洲

のい人をさるあそ月姑 狸山

あすありと田子月東や山さる羅 石池

そりやまのうらうらとあそ月 可竹

名夕やかとおまうらハカと月瓜 快産

そりお山とつくと子お丸松 土佐岑女

生體や都ハゆえお朝陽 冬羅

あそ川おまのうらうら 土美

松の木とまのうらうら 一葉

あそお戸とまのうらうら 和樂

日おしそ乃日也とまのうらうら 朝瓜

あそおや日おとまのうらうら 途及

あそ柳とまのうらうら 美女

あそおとまのうらうら 岳路

あそおとまのうらうら 杜曉

夕空を鷺子あふき藤田より近江千影

雪のふりさかすおほほあり筑前升雄

雪のあふきささきささきら哉筑前歸来

若乃東や本涼きささきの杜宇 伝電

ささきささきの中ささきささき山代 月影

市中ささきの世ささき 碓大坂百岩

月ささきささきの真のささき 梅子

宇米おほきささきささきささきの陰少年富良

風安をささきささきささきささきささき 松園

ささきささきささきささきささき 不純

ささきささきささきささきささきささき 逸人

逸人



茶廼烟理

雲耳交

利豆象

公



幾多於之

雪見

鷓鴣

不轉



世多轉梅跋



智如燈之凭几雖以美代人為友歡樂
言不迫於心とききり我友不轉の何
其来り雜々乃談の力り又近
隣の朋友来り集はる予と好と終句
おれりいさや歌僊をものせんと机
を離れ半刻の間斗りおれり
依て戯平かせしものし

世多轉梅跋

七七

山陰縣志

大和文化萬年之十年歲在

癸酉春正月上幹

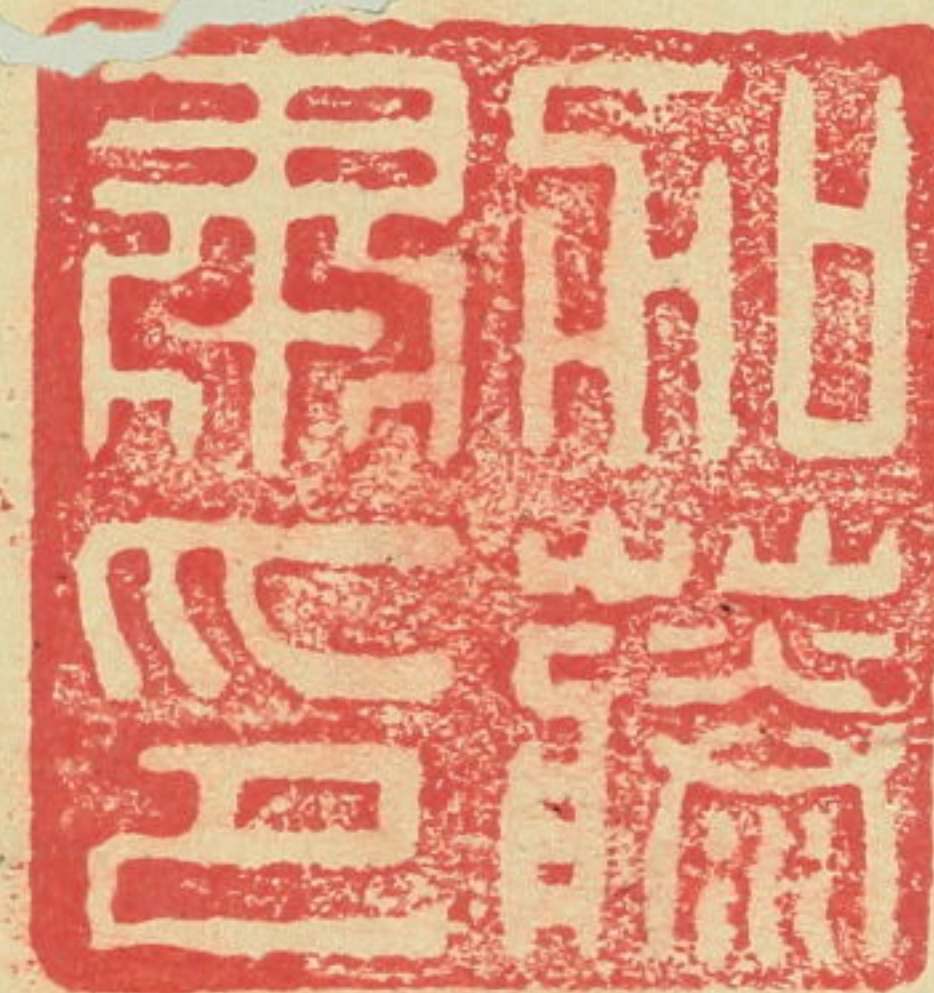
北石齋逸人書



雞頭庵不轉

同輯

梅樹軒逸人



長谷川東野



